

いしづち

愛媛労災病院広報紙 第6巻第4号

(通巻第46号)

2008年10月5日発行

発行人: 病院長 篠崎文彦

【愛媛労災病院の理念】

当院は働く人々のために、
そして地域の人々のために
信頼される医療を目指します



病院機能評価の再受審に向けて

副院長 宮内文久

当院は平成17年6月病院機能評価機構から認定を受けました。認定は5年間有効ですから、次回は平成21年10月受審申込み、平成22年2月頃に訪問受審の予定でいます。

平成17年には評価項目version4で受審しましたが、今回はversion6で受審することになります。8月13日に発表された評価項目version6案は9月に最終決定され、10月受付開始、平成21年7月から運用開始の予定です。version6(案)の主な改正点は、(1) 内容が重複する項目などの整理統合を行い、小項目数はver.5の約3割減となる、(2) 第2領域の名称が「患者の権利と安全確保の体制」から「患者の権利と医療の質および安全の確保」に変更され、質と安全の向上に向けた取り組みを評価する、(3) 第4領域で評価する医療機能について「体制の整備」、「機能の発揮」、「質の改善」の視点から評価項目が再編整備される、(4) 新たに「エネルギー消費などの抑制努力」、「子育て支援などの離職防止・復職支援策」、「院内暴力への対応策」などの項目が新設されることです。

病院機能評価機構の認定を受ける目的は医療の質の改善を図っていくことと考えられ、そのため評価の結果は「認定」あるいは「認定留保」とされます。訪問審査を受けると4～6週間後に改善すべき点を明示した中間的な報告が届き、改善の取り組みに対して補充的な審査を受けることができます。平成19年度には319病院が訪問審査を受け、156病院が認定を受けています。平成19年度途中で中間報告、補充審査などを利用することが可能になり、認定された病院の割合はそれまでの約30%から約80%へと大幅に増加しています。例えば、

「4.12.3 臓器提供施設としての体制が確立している」に対して「ドナーカード保持者に対する対応が院内で全く検討されておらず、規定もない」と指摘された病院が、「ドナーカード保持者へ対応方針と具体的な手順を整備し、職員への周知を図った」ことで「改善」と判断されました。一方、「5.3.2 患者に関する情報が確実に伝達されている」に対して「指示出し・指示受けの仕組みが医師により異なっており、全く統一されていない」と指摘され、「電子カルテの導入を検討中であり、その時に指示出し・指示受けの仕組みを抜本的に整備する予定である」には不可と判断されました。

さて、機能評価を受審する利点は、(1) 病院の現状を客観的に把握することができ、(2) 改善すべき問題点が明確になり、(3) 評価と改善のプロセスにより医療の質の向上と効果的なサービスの改善につながるのだと考えます。

また、機能評価機構の評価項目とほぼ同じ内容で保健所の医療監視が行なわれています。一方、欠点として(1) 審査に210万円が必要で、(2) 規定・手順・マニュアルばかりが求められる、(3) 設備の改善に費用がかかるとの声が挙がっています。医療人として全ての知識を蓄え、適切に行動できれば手順、マニュアル等は不要なのですが、度忘れや勘違いの可能性を考えればやはり必要かもしれません。

なお、病院間の格差を無くし公平なサービスを提供するためには、必要な改善作業もあるのではと考えます。平成20年8月12日時点で日本全国で8,832病院があり、そのうち2,523病院が認定されています。

呼吸器内科の新設に際して

呼吸器内科部長 森 公 介

このたび9月に新設されました呼吸器内科に赴任致しました。

愛媛労災病院は病院の性格上、じん肺、頸損、喘息、呼吸不全などの慢性呼吸器疾患が多く、さらに近年はアスベスト関連疾患が著増してきています。現在アスベストは患者さんが宇和島や今治からも受診してきておられるほどですが、アスベスト関連疾患も本院では診断から、化学療法、手術まですべて可能であることから、今後大変忙しくなることが予想されます。さらにアスベスト疾患センターの開設も検討中です。

この数年で呼吸器疾患は世界的に分子生物学的な診断・治療が導入され、気管支ファイバーを用いての検査、治療も格段に進歩していますので、本院でもこれらの最新の治療・診断が反映されていく予定です。

特記すべき事として、本院ではすでに呼吸器の治療に関して他にも強力な先生方がおられます。手術については友澤尚文先生を始めとする複数の胸部外科の先生方、RCUについては麻酔科の坂本賢一先生がおられ大変心強い限りです。これらの先生方と連携をとりながらチーム医療を行っていきたく存じます。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

第1回化学療法勉強会の開催

8月21日に第1回化学療法勉強会を開催しました。テーマを「ガンとは何か」とし、当院の緩和医療委員会副委員長を務める藤井外科副部長が講演を行いました。今回は関係職員64名の参加があり、緩和医療への関心の高さを感じました。今後も2回、3回と勉強会を開催いたしますので、ぜひご参加ください。

ところで、皆さまは癌の由来を知っていますか?この答えは、藤井先生が講演の中でおっしゃっていましたが、癌を表す英語cancerは、乳癌の腫瘍が蟹の脚のような広がりを見せたところから、医学の父と呼ばれるヒポクラテスが「蟹(ギリシア語でkarkinos)」の意味として名づけたと言われていました。

また、漢字の「癌」の成り立ちは、山の上に色々なものの意味を持つ「品」があることで、山に有る様々な形の厳しい岩を表しています。よって、「癌」は厳しい病という意味を持っているのです。

外来化学療法室を開設しました

外科副部長 藤 井 雅 和

8月1日に念願の外来化学療法室を開設しました。このたび非常にモチベーションの高いメンバーが集まり、約3ヵ月で開設までこぎつけることができました。これは関係医師、薬剤部及び看護部等関係職員の並々ならぬ御協力をいただいた結果であり、この場を借りて深く御礼申し上げます。

さて開設1ヵ月目の現状ですが、治療延人数は14名であり、診療科は外科(呼吸器外科、消化器外科)でした。最初の1ヵ月としては、まずまずの滑り出しだと考えております。外来化学療法室のできた意義としては、① 患者様のニーズとQOL(入院ができない等)に合わせた治療ができる、② 化学療法に関する悪いイメージ(髪の毛が抜け落ちる、嘔吐してしまう等)を払拭できる、などがあるのではないかと考えています。今後治療人数や診療科の増えることが期待されます。

女性専門外来を始めました

女性特有の疾患や心身の変調等について気軽に相談し、安心して受診していただけるよう下記のとおり、女性医師による「女性専門外来」を開設することになりました。

男性医師への抵抗感や何科に相談してよいかわからないこと等の理由で受診を先延ばしにして、症状が悪化しているケースが多いといわれています。

そこで当院では、女性医師が診察を行うシステムを導入することにより、女性が受診しやすい環境をつくり、プライバシーの保護に配慮するとともに、適切な治療や働く女性の職業生活への支援につなげ、少しでも患者様のお役に立ちたいと考えております。

記

1. 開始年月日：平成20年10月6日(月)
2. 実施日時：毎週月曜日 午後2時～午後4時
3. 担当医師：産婦人科 高橋慶子医師
4. 受付方法：地域医療連携室で月曜日～金曜日、午前8時30分～午後4時まで電話で受付(完全予約制)、電話 0897-33-6199

ご不明な点につきましては、お気軽に地域医療連携室までご連絡下さい。

「心とからだの健康管理」講座

広瀬公園に隣接する新居浜市上原の「高齢者生きがい創造学園」において、当院の医師が講演を行っております。

これまでに「頻尿・尿失禁について」講師：佃泌尿器科部長、「脳卒中について」講師：福井脳神経外科部長、「口と健康について」講師：千葉歯科口腔外科部長、「骨粗しょう症について」講師：東整形外科副部長の講演が行われ、身近な病気に関する講座ということもあり、毎回100人以上の方が受講されました。

今後の講演予定は以下のとおりです。

10月14日(火)「糖尿病について」講師：中井内科部長

11月11日(火)「動脈硬化と心臓病について」

講師：佐藤循環器内科部長

(いずれも午後2時から3時30分までです)

受講方法等につきましては、高齢者生きがい創造学園(電話番号: 0897-44-4826)にお問い合わせ下さい。



健康ひろばの開催

医事課長 松元 祐至

7月10日に第2回、8月21日に第3回の「健康ひろば」を開催しました。これはフジグラン新居浜店のイベントスペースをお借りして、地域の方々が気軽に参加できる生活習慣病の啓発のイベントとして行っています。無料で測定や健康相談ができることもあり、毎回好評を得ています。現在までの参加者数は248名(測定、相談延べ人数1,137件)で、今後も毎月定期的に開催していく予定です。



高校生ふれあい看護体験

外来師長補佐 大山 淳子

去る7月22日(火)、高校生を対象にしたふれあい看護体験を行いました。市内の高校だけでなく、東は土居高校、西は西条高校からの応募があり、合計20名の元気ある高校生が参加してくれました。

当日は13時の集合にもかかわらず15分前には全員が集合しているという、積極的な皆さんでした。あこがれの?白衣に着替える時も、緊張しているのかな、という心配もしましたが、楽しそうにわいわいがやがやと、非常に和やかでした。いざ各病棟へ分かれて2時間、看護師と一緒に、足浴や洗髪、車椅子移送の介助など、数々のことを体験しました。今回参加者の殆んどの方が看護師希望であり、病棟では若干緊張しながらも、皆さん笑顔で体験をしていました。また患者様もそのすばらしい笑顔に対して、普段あまりお話をされることがない患者様がその時だけはお話をされた、という事もありました。この若さと笑顔は患者様を元気付け、大きなパワーを感じることができました。

私自身もウン年前の自分とちょっと重ね合わせ当時は思い出したり、また初心に返ることができた看護体験でした。来年も元気な高校生と会えることを願っています。

職場体験学習を担当して

北4病棟看護師 永井 明子

炎暑の8月、かわいい中学生3人が、当院に職場体験に来られました。日焼けした笑顔にちょっと大きめの白衣、どこかアンバランスな感じもするけれど、その初々しさに、つつい私も遠い日の自分の姿をダブらせてしまいました。3人には、実際に患者さまとのふれあいを体験(清拭、車イス介助やその他)していただきました。ふれあいの一つとして、新生児室での生後まもない赤ちゃんのオムツ交換や抱っこをしてもらいました。最初は緊張し、おそろおそろ赤ちゃんに触れていたのが、抱っこできると満面の笑顔に変わりあやす姿は、母性愛そのものでした。体験後に「忙しくても患者さんに笑顔で接していて、とても元気がもらえる気がしました。笑顔が大切なことが分かりました」との言葉が聞かれ、日頃業務に追われ忘れかけていた、笑顔で看護することの大切さを改めて3人の中学生に教えられたように思いました。また、「医療の道に進むことは決して、楽で簡単なことではないけれど、自分の将来の夢に向けて努力していきたい」といった心強い決意も聞かれました。現代社会においては、医療の透明性、人材不足、医療崩壊といったことが叫ばれ、医療界を取り巻く環境は深刻です。そんな中、厳しい医療の世界を選択し、体験を通してさらに、その道に進みたいと将来への夢を大きく膨らませてもらったことを、うれしくもあり、頼もしくも思え、私自身も良い経験になりました。



【新しいスタッフの紹介】

呼吸器内科部長 森 公介

a. 渡辺医院、b. 朗読CD鑑賞、c. 生野菜、d. 愛媛県、e. 鳥インフルエンザが流行しないことを祈っております。すべきことが多く、地道に努力したいと存じます。



南5病棟看護師 二神 奈々

b. 映画鑑賞、子供と遊ぶこと、c. ハンバーグ、果物、d. 愛媛県、e. 思いやりの気持ちを忘れず頑張ります。御指導よろしくお祈いします。



整形外科部長 國 司 善彦

a. 山口労災病院、b. 宴会、c. 焼肉、d. 山口県、e. 9月1日よりお世話になっております。よろしくお祈いします。



ICU看護師 岡 部 美保

b. スキューバダイビング、サーフィン、スノーボード、c. プリベの Pasta、d. 愛媛県、e. 心機一転がんばりますので、御指導よろしくお祈いします。



整形外科医師 森 脇 伸二郎

a. 玉造厚生年金病院、b. 野球観戦、c. 肉、すし、d. 山口県、e. 今後とも御指導よろしくお祈いします。



外来看護師 岡 西 小百合

b. スポーツ観戦(サッカー、ソフト)、c. 焼肉(京城園の上カルビ)、d. 愛媛県、e. 久しぶりに復帰しましたので浦島太郎状態ですが、御指導よろしくお祈いします。



北6病棟看護師 玉 井 道子

b. ショッピング、c. お菓子、d. 愛媛県、e. 精一杯頑張りたいと思います。御指導よろしくお祈いします。



註 (a. 前の勤務先 b. 趣味 c. 好きなもの)
d. 出身地 e. 一言

連携室だより

初雁の姿に、秋を感じる季節となり、皆様もお変わりなくお過ごしのことと存じ上げます。

季節の移り変わりと同様に当院の整形外科診療体制が9月より変更となりましたのでお知らせ致します。

当院で脊椎疾患の専門医として多くの業績を残された砂金先生と多くの脊椎疾患の治療に専念しておりました井上先生が8月末でご退職となり、9月1日から新しく山口大学整形外科で脊椎疾患の基礎的、臨床的研究を行い、その後山口労災病院で脊椎疾患の治療に従事しておりました國司善彦先生と山口大学、関連病院等で勤務されておりました森脇伸二郎先生が起任してこられました。

また、9月16日より現在の呼吸器科を呼吸器内科とし週4回の診療を開始いたします。

労災病院地域医療連携室においても、看護師の介入により今後医療のネットワークや機能の拡充を図ってまいります。機能診療体制の変更等により、皆様にはご迷惑をおかけ致しますが、当院では今まで以上に信頼される病院を目

指しておりますので、今度ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

ちょっと一息

新居浜太鼓祭りの季節となりましたね!

太鼓台の発祥起源については、いろいろな言い伝えがありますが、平安時代または鎌倉時代の説が一番有力に伝えられています。しかし記憶に残された文献等を調べた結果では、江戸時代後期の文政年間の頃からの記述に、太鼓台に関する内容が確認されており、その時代は現在の様な「太鼓台」と言う呼び方でなく「神輿太鼓」と呼ばれていたようです。

以前は、祭礼の時、みこしに供奉する山車の一として信仰を対象にした新興渡御のときその列に参加して巖かに供奉し、豊年の秋を感謝して氏神に奉納していたもので、太鼓台が現在のように巨大化し、祭りの主役になっていたのは明治時代の中期以降と言われております。ご存知のこととは思いましたが、今回は太鼓台の歴史についてふれさせて頂きました。(地域医療連携室・塩見誠理)

編集後記 秋の風物詩「いもだき」が親睦会の行事として5年ぶりに復活したので、お酒が呑めるのならと勇んで参加しました。2回に分けて行われましたが1回目が約130人、2回目が約60人の合計約190人が参加されました。だし入りのつゆの入った鍋の中に素朴な具材をぶち込んで、待つこと約10分、早速食すとこれが想像を絶するほどうまい。虫の音と秋の夜風と中秋の名月に秋の訪れを…なあってそんな余裕はなく「こりゃ酒もうまいぞ、呑め呑めって」あっちの鍋こっちの鍋と渡り歩いていました。

いやあー、これは大勢でやるっていうのが一番のご馳走なんでしょうね。来年も行こって決意しました。

来年は今年の失態を反省し、「照明がない時代に月明かりを代わりにした」という情緒を感じながら楽しむようにいたします。乱入された方には本紙をお借りしてお詫びいたします。追伸: どなたか教えてください。「なぜ新居浜のいもだき」ではなく「新居の」っていうんでしょうか? 気になって夜も眠れません。(S.M)

広報紙編集メンバー 病院長(篠崎文彦)、副院長(友澤尚文)、医局(稲見康司、福井啓二)、看護部(伊藤千鶴、高橋美保、泉敦子、山根千春)、総務課(松本伸二、田中満)、医事課(石井裕美子、塩見誠理)、薬剤部(橋田麻衣)、放射線科(正岡憲治)、検査科(伊藤英司)、リハ科(小川進太郎)、栄養管理部(清水亮)